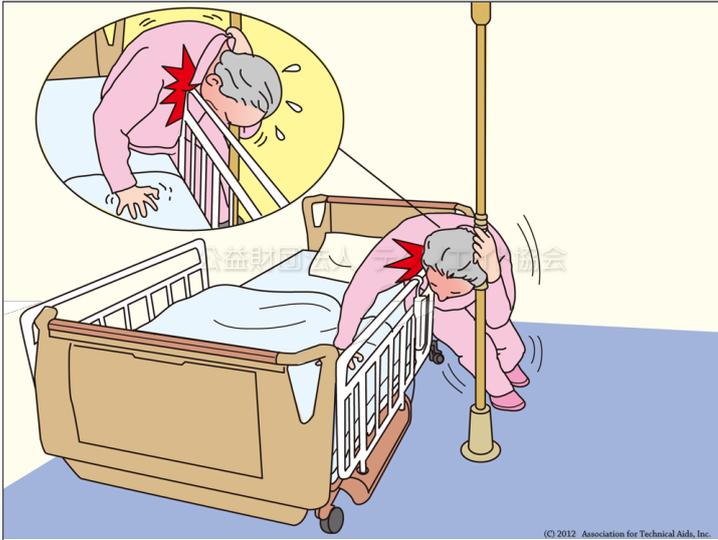


Case : 55

床置き形手すりとベッドの間に身体が挟まり、身動きがとれなくなる

場面の説明

床置き形手すりとベッドに隙間があり、転倒した際に首が挟まってしまった



利用シーン	 移乗  立ち座り
主な利用場所	 寝室
介護保険の種目	 手すり
分類コード (CCTA95)	181806 (握りバー, 握り)
介護テクノロジー	—
二次元バーコード	

解説

歩行や立位の不安定な人では常に転倒の危険がありますが、転倒した際に首や頭などを挟み込んでしまうとさらに重大な事故につながります。このような人が生活する環境には、挟み込みやすい隙間を作らない予防策をとることで重傷事故を減らすことが可能です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

- 人：まさかこんな隙間に挟み込まれてしまうとは考えていなかった
- 環境：ベッドの柵（サイドレール）と床置き形手すりの間に入り込みやすい隙間があった
- 環境：このような事故の事例が発生していることを教えてくれる人がいなかった

日付：	所属：	氏名：
-----	-----	-----

Case : 55

床置き形手すりとベッドの間に身体が挟まり、身動きがとれなくなる

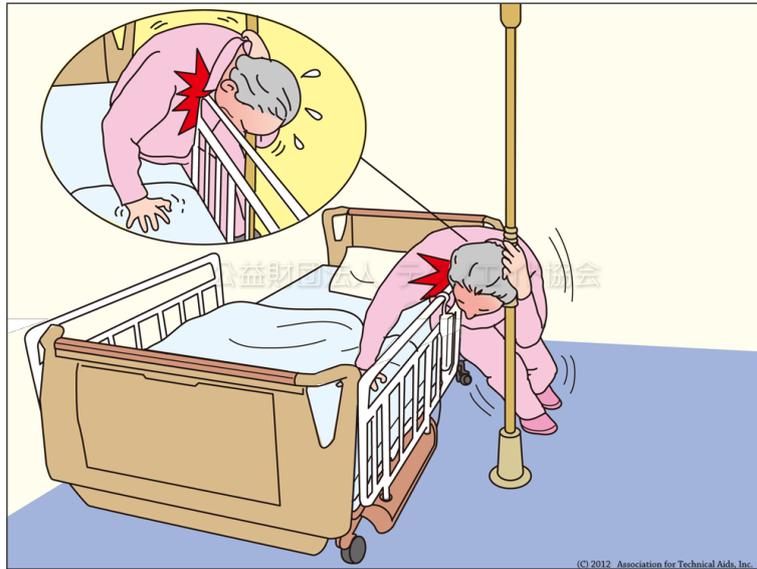
事例詳細



回答前に見ないこと

場面の説明

床置き形手すりとベッドに隙間があり、転倒した際に首が挟まってしまった



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ